

# 自民党支持を叫ぶ鉄道労連許すな

## 日刊 動労千葉

1988.7.12  
No. 2854

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 労働者の敵「幸マル」鉄道労連を解体・一掃しよう！

動労革マル・鉄道労連第三回大会が六月二八・二九日、東京九段会館で開かれた。

「労組」の大会とは名ばかり、方針から出席者の顔ぶれ、発言にいたる全てが万幸、自民党や日経連の総会と見間違えうほど腐敗・墮落しきった会社の翼賛大会に終始した。しかも、一企業・一組合の破産と内部の動揺をおさえるために「鉄産労の吸収・併合にむかっている」等々のウソとペテンで必死に危機を隠蔽しようとしてあがいているのが特徴である。

われわれは、怒りも新たに「四・一」体制の最も弱い急所「動労革マル・鉄道労連解体」へともう然と進むものである。

資本主義の「敵」を「出さし、労働者の武装解除を狙う」

彼らの情勢分析は、冒頭から「好調な景気回復」「企業投資も回復」「雇用情勢も好転」と美に世界と日本資本主義はバラ色であり永遠の繁栄をおう歌しているとはかりに描きあげている。

そこには低賃金・強労働の中で苦闘する人民・大衆の怒りの一片すらないのであり、分割・民営化攻撃の中で十万人以上の仲間が国鉄を追われ、今もなお五千人の仲間が清算事業団という首切り「収用所」で闘っている現実を完全に抹殺しているのである。

彼らは、支配者階級の手口そのままに「資本主義は繁栄。だから階級的労働運動はナンセンス」「景気拡大がJ.Rの発展になる。」従って「会社・国家のためなら兵器生産・輸出も当然」と公然と軍大化。戦争政策への荷担を表明しているのだ。現実の危機を繁栄といひなし、労働者の武装解除・闘う労組の破壊を己の課題にすえるという百%右翼ファシスト御用組合として純化したのである。

おぞましい方針（政策）の展開「自民党別動隊そのもの」に転落！

彼らの方針（書）は怒りなしには一行といえども読めない。

①「税制改革は最大の課題、不公平税制の是正を」要するに税制改革大賛成と双手を挙げて自民党案に賛成しているのである。

大型間接税は大衆収奪の強化と大軍拡にむけた財源確保の大攻撃である。瓦防衛庁長官は「防衛には金を惜しむな。戦争になれば膨大な金を使う」と六月十一日、福岡で公演しているではないか。動労革マル・鉄道労連の大型間接税賛成を許すな！

②「整備新幹線は四全総にもとづく国土の発展・住民のロマン……」

総額二〇兆円といわれる整備新幹線、これこそ自民党の政治介入であり、新たな赤字づくりそのものだ。しかも、四全総とは日本列島の不沈空母化の攻撃であり、夢やロマンなどトンドでもない話ではないか！

③「J.R党（議員団）の結成、鉄道労連の政策を指示する有志議員対象」といひながら、実際は、自民党を支持する運動を行おうということなのだ。すでに鉄道労連の旧社員労・旧鉄輪会を中心に職制層の自民党加入運動が進められているのは公然の秘密になっているが、これと革マルが一体となって社会党議員を排除し、公明・民社を大きく通り越して自民党支持の運動を展開しようというのだ。まさに、自民党翼産運動そのものだ。

日本の労働者・人民の利益を守るためには、動労革マル・鉄道労連を解体しつくすことこそ最重要の課題だ。動労革マル・鉄道労連を絶対に許すな！